

式 辞

石川県立七尾高等学校第72回卒業証書授与式を、ご来賓の方々、そして、多数の保護者のご臨席を賜り、挙行できますことは、誠に喜ばしく、心より御礼を申し上げます。

先ほど、卒業証書を授与いたしました238名の皆さん、卒業おめでとうございます。

また保護者の皆様にも心からお祝い申し上げますとともに、これまでのご理解とご協力に対し、深く御礼申し上げます。

皆さんは、3年前の平成29年4月、高い志を持って本校に入学し、以来、「至誠・剛健・敢為」の校訓の下、真摯な学びを続け、高い知性と豊かな人間性を身につけ、令和時代最初の卒業生として、輝かしい未来に向けて、旅立つ日を迎えました。どうか、お世話になった全ての方々への感謝を忘れることなく、羽ばたいていってください。

今年度は、創立120周年を迎え、最高学年である皆さんの献身的な協力によって、大変、立派な式典を挙行でき、七尾高校の名声を大いに高め、今後の躍進・発展を方向付けることができました。皆さんには、心から感謝しています。

にもかかわらず、新型コロナウイルスの広がりの中、在校生不在の「小さな卒業式」になってしまったことを、誠に申し訳なく思っています。残念ながら、この場にはいない在校生たちが、皆さんへの感謝や祝福の心を込めて卒業式の準備をしてくれたことを伝えたいと思います。

さて、これからの社会は、変化が激しく、予測不能と言われ、内外ともに多くの課題に直面していると言われます。未来を生きる皆さんには、こうした課題に向き合い、解決し、明るい、希望の持てる「持続可能な社会」を作っていくことが求められています。

皆さんは、3年間の学びを通して、「探究」、すなわち、課題の発見、仮説、検証、解決、発信という学びを行い、「融合プロジェクト」で結実させ、探究力を高めました。

また、「破顔一笑」をスローガンにした七高祭では、笑顔の価値を共有し、円満な人間関係を築きながら、協働的に物事を完成させていくことの喜びと感動を味わいました。

こうした力を身に着けた皆さんだからこそ、新しい時代を切り開くリーダーとして、ふさわしい活躍ができるものと確信します。どうか、それぞれの進む道で、自己実現を図りながら、社会に貢献し、社会や、そして母校が誇る人として活躍されることを期待します。

カントは、「人生の目的は幸福ではなく、幸福に値する人格の完成」であると言いました。皆さんには、今後さらに、人間力を磨き続け、それぞれが自分に適した「幸福に値する人格の完成」を目指して欲しいと強く願います。こうした生き方そのものが、幸福に通じるものと信じます。

結びに、皆さんが生まれ育った石川県、能登には、ふるさとに愛着と誇りを持ち、広い視野に立って社会に貢献できる皆さんの力が必要です。一旦、この地を離れることがあっても、いつかは、ふるさとに戻り、その活性化と発展のために力を尽くしてくれるよう願います。

母校は、皆さんの活躍を末永く、そして、暖かく、応援し続けます。皆さんも機会があれば、母校を訪れたり、高校生活を共に過ごした先生方や仲間と、培った「絆」を確かめ合ったりしながら、心のふるさととも言うべき、七尾高校の発展に、是非、力を貸して欲しいと願っています。

皆さんの輝かしい前途に幸多かれと心から願い、式辞とします。

令和2年3月3日

石川県立七尾高等学校

校長 山口 和人